

AI活用 空調機設計サポートシステム

新晃工業、ABEJA社と開発

新晃工業（社長 末永聡氏、本社・大阪市北区）は、セントラル空調機の設計に関する業務効率の向上を目的とする社内向けのサポートシステム、「SIGNO AI Design Link」をABEJA（社長 岡田陽介氏、本社・東京都港区）と開発したと発表しました。AI技術で設計現場における技術伝承のスピードを引き上げ、設計技術者不足への対応と顧客サービス向上に取り組

むとともに、新たな情報や知見を継続的にシステムに取り込み、「新たな価値創出を進める」（同社）としている。

空調機器の設計・製造では顧客ごとに異なる要求に応じた製品を提供できる技術が必要となり、設計業務はビジネス価値を決める重要な業務プロセスの一つとなっている。一方で、新晃工業はカスタム性の高い製品の提供を強みとしてきたため標準化が難しく、ペテラン設計者にアドバイスの要請やレビューの依頼が集中し、人材育成の負担が増大していた。

この課題に対して同社は従来、属人的に行われていた設計業務に関する複雑な情報のデータ化を図り、生成AIの一つである大規模言語モデル（LLM）を活用したチャット形式のUI（ユーザーインターフェース）で、設計者が自然言語を用いて質問や情報要求を入力し、引き出すことが可能な設計サポートシステムを今回構築した。システム構築にあたり、社内のベテラン設計

者が担ってきた設計業務に関するノウハウや知識、過去の案件情報、不具合情報などを集約・データ化した上でLLMを利活用し、検索にとどま

らず設計に必要な分析、深掘り、指南などの機能を活用できるよう実装した。新晃工業では「本システムの実装が、設計部署における工数削減につながる」と見込んでおり、さらにお客様へのサービス品質向上を視野に、本システムの設計以外の部門への適用も検討する」としている。